

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉井 巧一	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。(2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。(3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。(4)テニス部顧問として学生の指導に当たる。		0.30	(1)Webクラス・Skypeクラスを開講するなど、目標を十分達成できた。(2)各種FD講習会に参加し、目標を達成できた。(3)目標を達成できた。(4)目標を達成できた。			
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。(2)「海外文化研修」引率の機会や学会等を利用し、外国語教授法に関する最新の研究資料を収集・分析する。(3)日本独文学会西日本部会幹事として学会活動に寄与する。		0.30	(1)目標を達成できた。(2)予定通り、当初の目標を十分達成できた。(3)目標を達成できた。			
社会貢献	0.20	(1)沖縄日独協会理事、沖縄国際大学・国立高専及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。(2)担当の「インテンシブドイツ語I・II」のクラスを公開授業とする。(3)独検(ドイツ語技能検定試験)沖縄地区実施責任者として貢献する。		0.20	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。(3)目標を達成できた。			
管理運営	0.10	法文学部教育委員、その他委員会委員としての職務を遂行する。		0.10	目標を達成できた。			
進路指導	0.10	指導教員・進路支援委員会委員として、大学就職センター等を活用しつつ学生の進路指導・就職指導を進める。		0.10	目標を達成できた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西森 和広	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	共通教育外国語系フランス語科目、人文系科目、前・後期計5科目、学部専門科目、前・後期計5科目、人文社会科学研究科(大学院)科目、前期1科目を担当する。学生演劇部の顧問を務める。		0.40	共通教育外国語系フランス語科目、人文系科目、前・後期計5科目、学部専門科目、前・後期計5科目、人文社会科学研究科(大学院)科目、前期1科目を担当した。学生演劇部の顧問を務めた。			
研究	0.39	レオーネ研究並びに映画史関連研究を推進し、論文または研究ノート一点以上を発表する。		0.39	レオーネ研究並びに映画史関連研究を推進し、研究ノート一点を公表した。			
社会 貢献	0.01	日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員会委員を務める。		0.01	日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員会委員を務めた。			
管理 運営	0.20	営利企業役員等兼業審査委員会委員、全学学士教育プログラム委員会委員、法文学部教育後援会役員、法文学部教育委員会委員、その他委員会委員を務める。		0.20	営利企業役員等兼業審査委員会委員、全学学士教育プログラム委員会委員、法文学部教育後援会役員、法文学部教育委員会委員、入学試験関連委員を務めた。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 厚子	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	今年度前期は共通教育2科目、専門2科目担当のほか、共通・専門合併科目「海外文化研修」の実施年度にあたるため、安全に遂行できるようその準備や現地での引率に関しては細心の注意を払う。また、研修参加者が後期の授業にも引き続き参加できるような環境づくりをする。後期は共通教育2科目、専門4科目を提供する。 専攻3年次の指導教員として、学生の進路指導・情報提供を随時行う。			0.50	夏休みの「海外文化研修」実施に向けて、前期は学生への説明会の実施や語学研修実施校との連絡、JASSO奨学金受給にかかる書類の作成など、多くの時間を割いたが、学生の満足度の高い研修が実施できた。後期は研修参加学生のモチベーションが持続するよう配慮しながら授業を行った。 3年次指導教員として、修学指導・進路にかかる情報提供等を行った。学生の留学に関する相談に対応した。		
研究	0.40	去年度まで3年間参加していた科研の資料の翻訳と分析を引き続きまとめ、1840年代から20世紀初頭における琉球・沖縄とフランスとの交流について成果を発表する。			0.40	琉球・フランス関係の資料の翻訳作業を進めるとともに、一部の新資料の紹介を研究ノートとしてまとめた。本分野に関連する「仏学史学会」に初めて参加し、他の研究者と意見交換した。		
社会 貢献	0.05	実用フランス語検定試験において、実施責任者・試験監督としての業務を遂行する。			0.05	実用フランス語検定試験において、沖縄会場実施責任者(秋季)・試験監督(春季・秋季)を務めた。		
管理 運営	0.05	学部「自己評価委員会」および全学「国際交流に関する自己評価・点検委員会」委員を務める。また学部の進路支援委員を務める。			0.05	学部「自己評価委員会」および全学「国際交流に関する自己評価・点検委員会」委員を務めた。また学部の進路支援委員を務めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		デルバール・フランク	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	仏検とDELTA(フランス文科省のフランス語資格)の資格の習得活動 支援・海外研修におけるあらゆる面の準備支援・ヨーロッパ言語文化 専攻の4年次の指導教員・4年次の卒論執筆支援など		0.40	左に書いてある通りに実行できました。			
研究	0.30	1)共同企画においてフランス語コースに適応した日本人学習者向けの文脈化され たフランス語文法の作成活動 ・ 2)フランス言語学においてはフランスの地方言語 であるフランコプロヴァンス語のビュジェー地方方言の研究(多方言の単語集作成、 ヴァルメー方言の文法における形態論とシンタクスの研究)		0.30	1)この研究が進んでいます。2015年11月に行われた日本フランス語教育 学会においてこのテーマについて発表もしました。2)においても予定通 りに進んでいます。このテーマについて沖縄外国分学会の紀要に論文を載 せてもらうことになっています。			
社会 貢献	0.10	琉球大学におけるフランス語の公開授業		0.10	今年度公開授業として提供したフランス語の授業の数を増やしました。来 年度も一コマ増やす予定で、全部で三つの授業を公開授業になります。			
管理 運営	0.20	1)学内:学生生活委員会・将来企画委員会 ・ 2)学外:沖縄外国文学会における編 集員・日本フランス語教育学会委員会		0.20	書いてある通りに実行しています。学部改組を考える4専攻のWGにも積極 的に参加しています。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		鈴木 正士	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	年15コマを担当する。卒業論文作成を指導する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。理解力不足の学生に個別に学習指導する。		0.30	年16コマを担当した。卒業論文作成を指導した。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促した。授業や卒論指導においてレポートや論文の書き方を指導した。いつでも研究室にいるあいだは自由に学生の訪問を認め質問や相談に応じた。理解力不足の学生に個別に学習指導した。
研究	0.20	科研の申請を行う。2016年夏ドイツ国ミュンスター大学で開催される国際イスパニヤ学会において学会発表をすべく継続して行っている『ドン・キホーテ』の研究を引き続き続けていく。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が滞りなく出版されるよう努力する。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳し発表する。		0.20	科研の申請を行った。2016年夏ドイツ国ミュンスター大学で開催される国際イスパニヤ学会において学会発表をすべく継続して行っている『ドン・キホーテ』の研究を引き続き行った。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が滞りなく出版されるよう努力した。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳した。本学紀要『言語文化研究紀要第24号』に発表した。
社会貢献	0.10	担当授業を社会人も受けられる、公開授業にするよう努力する。		0.10	来年度から、担当する授業「インテンシブスペイン語Ⅰ、Ⅱ」を社会人も受けられる、公開授業にすることにした。
管理運営	0.20	入試委員として遅滞なく入試業務が展開するようつとめる。教員養成運営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたる。図書紀要委員として図書の管理や紀要の編集に努める。学部の大学院年度計画検討小委員会、さらに当委員会のWGの一員としての任務に努める。		0.20	入試委員として遅滞なく入試業務が展開するようつとめた。教員養成運営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたった。図書紀要委員として図書の管理や紀要の編集に努めた。学部の大学院年度計画検討小委員会、さらに当委員会のWGの一員としての任務に努めた。さらに、後学期から休暇をとった教員に代わって地域社会貢献委員をつとめた。
進路指導	0.20	学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかるなど、学生の就職意識を高める。県内外の大学院への進学を希望する学生の指導助言にあたる。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行う。		0.20	学生の進学・就職に関し指導・助言した。就職センターの存在を知らせたり就職講演会への出席をはかったりするなど、学生の就職意識を高めた。県内外の大学院への進学を希望する学生の指導助言にあたった。学生の留学相談に応じ、協定校や、特にメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行った。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		酒井 清		所 属		法文学部 国際言語文化学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.60	1) 前期・後期で12コマの講義(4コマが共通教育科目、8コマが専攻科目)を担当し、卒業論文の指導を行う。 2) 最新のスペイン語教授法の修得に努める。 3) スペインへの留学希望者に対してカウンセリングを行い、スペインからの留学生と日本人学生の交流を促進する。				0.60	1) 予定通りに講義を実施し、2名の学生に卒論指導を行った。 2) 7月にスペイン・バジャドリッド大学にて短期のスペイン語教員養成プログラム(上級)に参加し、外国語教育におけるコミュニケーションアプローチや情意的側面などについて、最新の動向を学ぶことができた。来年度からその知識を本格的に応用したい。 3) 専攻生2名に対してスペイン留学について指導・助言を行った。また、学部事務と連携してスペイン留学に関わる派遣体制を整理した。				
研究	0.25	1) これまで行ってきた日系「デカセギ」研究について、積極的な論文投稿・研究発表を目指す。 2) 沖縄系移民・バスク移民に関する、大学の研究プロジェクトに参画する。				0.25	1) については、拙稿が収録された『ライフストーリー研究に何ができるか』(桜井厚・石川良子編)が新曜社より出版された。また、名桜大学主催の国際シンポジウムにパネリストとして参加した。 2) については、平成27年度中期計画達成プロジェクト「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究」に参加し、アルゼンチンで調査を行った。				
社会貢献	0.10	1) NHK国際放送と協力し、沖縄ないし日本の文化・社会についてスペイン語で発信する。 2) スペイン語能力試験「DELE」を本学外国語センターの共催で実施する。				0.10	1) 沖縄の日系ペルー人アルベルト城間についての特別番組でリポーターを務めた。また、日本の文化についてのラジオ番組の原稿翻訳に関わった。 2) 琉球大学を沖縄会場としてDELE試験を実施した。				
管理運営	0.05	予算委員として専攻の運営にあたる。				0.05	専攻の予算委員を務め、さらに後期からは学部改組に関わるワーキンググループに参加した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		石原 昌英	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自分の意見を出せるよう、少人数のグループワークを中心とした授業を行う。 ・学部高年次を対象とした社会言語学的なテーマを扱う授業では、具体例を挙げて学生の理解を深めるようにする。 ・博士課程(前期・後期)の指導学生が、学位論文を今年度中に仕上げるができるように、適切な指導を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育の英語科目と専門科目の演習・特殊講義において、グループワークを取り入れた。授業評価によると、学生からの評価は高い。 ・社会言語系の科目では、言語差別、言語権(言語的人権)、言語政策について講義したが、沖縄、アイヌ、北米先住民、北米移民の言語状況について具体例を挙げて、学生の理解を深めた。 ・博士前期課程の学生1名が修士論文、後期課程の学生1名が博士論文を完成させ、学位審査に合格した。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球諸語の復興・再活性化に向けた研究を進展させる。 ・国際沖縄研究所の研究プロジェクトに参加する。 ・新規の研究テーマとして、Code Switchingに関する先行研究の分析を行う。 ・琉球とハワイにおける西洋人と現地人との言語接触の研究を進展させる。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球諸語の復興・再活性化については、3編の論考を執筆した(うち1編は共著)。1編は3月31日刊行の書籍に採録されている。1編は近刊の書籍に採録されている。1編(共著)は、編集委員の査読をうけて採録が決定される。 ・国際沖縄研究所が文化庁の委託を受けて実施したプロジェクトの代表を務めた。また、本学の補助を受けたプロジェクトに分担者として参加して、研究発表を行った。 ・Code Switchingについては、先行研究の分析があまり進まなかった。 ・言語接触の研究については、これまで収集した文献・資料の分析を進めた。 (設定した目標が十分に達成できなかったため、自己評価は「B」とする。) 			
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県のしまくとぅば復興にむけた取組を研究者として支援する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁が設置した委員会に委員として参加した。 ・第2回方言サミットについて、研究者として支援を行った。 (目標が十分に達成できたため、自己評価を「A」とする。) 			
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学および学部の第2期法人評価に関する業務を支援する。 ・言語コミュニケーション領域主任として、円滑な運営に努める。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・全学・学部の第2期法人評価に関する業務について、全学WGの座長、学部自己点検評価委員会の副委員長、現況調査(研究科教育)の原案作成社として携わった。現況調査については、作業が遅れ気味であった。 ・言語コミュニケーション教育研究領域主任として、修論発表会(前期・後期)、大学院入試、その他の業務を遂行した。 (設定目標を十分に達成したので、自己評価を「A」とする。) 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石川隆士	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	「(1)大学院前期週1コマ、後期週2コマ、学部前期週8コマ、後期4コマ、計15コマの授業を行う。(他にノルマ外で卒論指導5人) (2)大学院科目、学部専門科目の「イギリス文学研究II」、「イギリス文学演習II」は専門領域である英文学について平成27年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。(3)卒論担当の学部生に進学、就職についての指導を行う。(4)修論指導の大学院生に進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。		0.30	予定通り実施した。S
研究	0.30	平成27年度科学研究費、挑戦的萌芽研究「風の詩学: 豎琴と螺旋」の研究を推進し、少なくとも「風の詩学」に関する研究発表を1件実施し、論文を1本執筆する。		0.30	予定通り実施した。研究発表:「“The Labyrinth of the Wind”: The Sacred Spiral of Resurrection」(2015年10月16日、1st Confrence of International Yeats Society、於University of Limerick) 学術論文: “The Labyrinth of the Wind”: The Sacred Spiral of Resurrection. Journal of International Yeats Society. (審査中)S
社会 貢献	0.10	(1)大学間連携IR事業を通じて、琉球大学IR事業の進展および英語教育の広報に努める。(2)沖縄国際大学での「英米文学概論の授業を週2コマ担当し、専門領域である英米文学について平成27年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。		0.10	予定されたものは全て実施した。加えて出前講座を2件(沖縄尚学高校、知念高校)、公開授業を1件実施した。S
管理 運営	0.30	(1)グローバル教育支援機構の共通教育部門長および大学教育センター副センター長として全学の共通教育科目の運営にあたる。(2)アドミッション・オフィス室長代行としてアドミッション・オフィスの実施にあたる。(3)全学学士プログラム委員会委員として全学教育プログラムの方針策定、運営にあたる。(4)入学者選抜方法等検討委員会委員として入試の運営にあたる。(5)教務情報システム仕様策定委員として教務システムの策定にあたる。(6)全学情報システム仕様策定委員として仕様の策定にあたら。(7)法文学部広報委員として法文学部の広報にあたる。(8)その他の委員会の委員として取り組む。		0.30	予定通り実施した。S
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		三原 穂	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	「英作文演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力する。			0.30	「英作文演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力した。A		
研究	0.40	2015年度には、海外誌に英語の学術論文を投稿するための十分な準備をすると同時に、書籍刊行を目指す。			0.40	海外誌への投稿準備もある程度進み、書籍は6月に刊行された。A		
社会貢献	0.05	学会発表において一般の方々にも理解してもらえるような堅くない内容の発表を行うように努力したい。			0.05	書記や大会準備委員として、学会の企画・運営などに積極的に関わった。A		
管理運営	0.20	英語教育委員会の委員として、教育カリキュラムや時間割作成に積極的に携わる。			0.20	英語教育委員会の委員として、教育カリキュラムや時間割作成に十分すぎるほど関わった。さらに全学URGCC委員として学士教育プログラムの発展に貢献した。A		
進路指導	0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの日本社会がいかに厳しいものになるかを示すと同時に、これからの時代いかにして社会人として生き残っていくのかその方策などを人文科学的視点のみならず、社会科学的視点からも示していく。			0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの人生がいかに厳しいものになるかを自覚させ、社会人として生き残っていくための方策などを「歴史から得られる教訓」の重要性を強調しながら示した。A		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		吉田 兼次		所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	講義の準備には多くの時間を割く予定である。興味を持たせるための工夫、わかりやすくする工夫を凝らしていく。		0.40	勤務時間の大半を授業の準備にあて、教え伝えることにまじめに取り組んだと考える。		
研究	0.30	研究論文の執筆を目指す。特に地方雑誌、全国雑誌への投稿・採択をめざす。		0.20	論文執筆に取り掛かったが、仕上げることはできなかった。		
社会 貢献	0.20	沖縄県公文書館の事業である『ベッテルハイム日誌』の日本語訳を昨年度から継続して行う。		0.20	『ベッテルハイム日誌』150ページの和訳を行い沖縄県公文書館に提出した		
管理 運営	0.05	欧米文化領域(院)の主任を務め、入試の指揮を執る。また、英語文化専攻の予算委員長を務め、予算の適正配分・執行を図る。		0.10	専攻内の委員会業務、学部代表の委員の業務、大学院において領域主任として責任を果たしたと考える。		
進路 指導	0.05	英語文化専攻4年次の指導教員の仕事をを行う。修学・進路指導について適切にアドバイスを行う。		0.10	4年次の指導教員として、無事卒業まで導いた。		
計	1.00			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山城 新	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.25	夜間主1年次の指導教員として学生の修学指導ならびにその他の学生生活にまつわる指導や助言をする。前学期の学部教育では、「リーディング」、英作文演習上級、「基礎演習」19世紀アメリカ文学、並びに総合環境学概論の世話人として登録や成績提出などのとりまとめを行うと同時に講義も1回担当する。大学院博士課程前期では19世紀アメリカ文学特論と国際言語文化特別演習Iと国際言語文化特別演習IIIを担当し、博士課程後期では比較地域文化演習科目を分担で担当している。後学期の学部担当科目は環境と文学を担当すると同時に環境副専攻の科目を1講担当する。後学期大学院科目は国際言語文化特別演習IIとIVを担当し、前学期に引き続き比較地域文化演習科目を分担で担当する。各シラバスに記載されている教育目標を達成する。総合環境学副専攻について科目を提供し、その他副専攻プログラムの拡充や検討に携わる。		0.25	夜間主1年次の指導教員として学生の修学指導ならびにその他の学生生活にまつわる指導や助言おこなった。前学期の学部教育では、「リーディング」、英作文演習上級、「基礎演習」19世紀アメリカ文学、並びに総合環境学概論の世話人として登録や成績提出などのとりまとめを行うと同時に講義も1回担当した。大学院博士課程前期では19世紀アメリカ文学特論と国際言語文化特別演習Iと国際言語文化特別演習IIIを担当し、博士課程後期では比較地域文化演習科目を分担で担当した。後学期の学部担当科目は環境と文学を担当すると同時に環境副専攻の科目を1講担当した。後学期大学院科目は国際言語文化特別演習IIとIVを担当し、前学期に引き続き比較地域文化演習科目を分担で担当した。各シラバスに記載されている教育目標を達成した。総合環境学副専攻について科目を提供し、その他副専攻プログラムの拡充や検討に携わった。
研究	0.20	国際沖縄研究所の発行するIJOS:International Journal of Okinawan Studiesの編集委員として編集に携わり、本年度の出版計画を遂行する。研究代表者として科学研究費補助金(基盤研究C)の初年度の研究計画を遂行する。		0.20	国際沖縄研究所の発行するIJOS:International Journal of Okinawan Studiesの編集委員として編集に携わり、本年度の出版計画を遂行する。研究代表者として科学研究費補助金(基盤研究C)の初年度の研究計画を遂行した。
社会 貢献	0.15	前期の学部専門科目「リーディング」を公開講座として、社会人学生を受入れ、地域の社会人教育に貢献する。		0.15	前期の学部専門科目「リーディング」を公開講座として、社会人学生を3人受入れ、地域の社会人教育に貢献した。
管理 運営	0.15	国際沖縄研究所のアメリカ研究部門の併任教員を務める。学外では学会(ASLE文学・環境学会)のコンピュータセンター委員としてメーリングリストの管理運営をする。学部将来計画委員会委員として学部改組の準備に携わる。専攻主任として専攻の組織的業務をとりまとめる。		0.15	国際沖縄研究所のアメリカ研究部門の併任教員を務めた。学外では学会(ASLE文学・環境学会)のコンピュータセンター委員としてメーリングリストの管理運営を続けている。学部将来計画委員会委員として学部改組の準備に携わり、専攻主任として専攻の組織的業務をとりまとめた。
進路 指導	0.25	大学院前期課程の学生3人(休学中の2人を含む)の指導教員として必		0.25	大学院前期課程の学生3人(休学中の2人を含む)の指導教員として必要な修学支援と進路指導を行う。卒論登録学生4人の論文指導を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		平塚 貴晶	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	前期6コマ、後期4コマ 卒業論文指導2人 英語資格試験指導、留学相談		0.30	前期6コマ、後期4コマを実施し、卒業論文指導を2人の学生に対して行った。また英語資格試験指導、留学相談も適時行った。
研究	0.30	論文3つ出版 口頭発表1つ実施 科研費若手研究申し込み		0.40	論文を6本出版し、口頭発表を3つ実施した(そのうち1つは基調講演)。科研費若手研究の申し込みもした。
社会 貢献	0.10	沖縄県教員免許状更新講習講師登録 外部講師セミナー開催責任者 沖縄県英語ストーリーコンテスト審査委員長		0.10	沖縄県教員免許状更新講習講師登録をし、外部講師セミナー開催責任者を2度務め、沖縄県英語ストーリーコンテスト審査委員長も務めた。
管理 運営	0.20	教育委員会 委員会委員 委員会委員		0.20	教育委員会、委員会委員、そして委員会委員の職務を遂行した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		新城郁夫	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	①共通教育指導においては、人文学的基礎と大学における研究の動機づけを学生たちに促す。②専門教育科目および大学院教育においては、特に日本近代文学と近現代沖縄文学の関連性についての応用的研究の実践にむけて、指導を徹底していく。		0.35	①、②の目標をすべて達成した。
研究	0.35	科研費テーマの「戦後沖縄文学に関する思想史的研究」についての研究論文を発表し、同時に、国内外の学術会議やシンポジウム等で、口頭発表を行う。		0.35	論文3本を国内外の学術雑誌に発表した他、成蹊大学主催学術会議や広島女性研究所主催国際会議で発表を行うなど、当初の目標を超える達成があった。
社会貢献	0.10	大学における社会人公開講座等(共通教育「琉球アジア文化入門」)の機会を最大限に活用し、専門知の地域社会への還元を図り、社会貢献を積極的に果たしていく。		0.10	当初の目標を達成した。
管理運営	0.10	将来構想委員会委員、およびワーキング・グループ戦略的研究推進専門委員会委員としての仕事を行う。		0.10	当初の目標を達成した。
進路指導	0.10	卒論指導と大学院進学指導、そして大学院前期(修論)および後期課程		0.10	当初の目標を達成した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		大胡 太郎		所 属		国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図る。				0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図った。				
研究	0.20	「奄美・沖縄にみる言霊」論文を執筆し、「悠久」誌に投稿する。				0.20	「奄美・沖縄にみる言霊」論文を執筆し、「悠久」誌に投稿し掲載された。				
社会 貢献	0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義する。 沖縄文化協会研究発表大会(於、沖縄国際大学)の音響担当を務める。 奄美沖縄民間文芸学会大会(於、鹿児島)の実行委員を務める。 学会誌「奄美沖縄民間文芸 16号」の編集委員を務める。				0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義した。 沖縄文化協会研究発表大会(於、沖縄国際大学)の音響担当を務めた。 奄美沖縄民間文芸学会大会(於、鹿児島)の実行委員を務めた。 学会誌「奄美沖縄民間文芸 16号」の編集委員を務めた。				
管理 運営	0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図る。				0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図った。				
進路 指導	0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実させる。				0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実を図った。				
	0.00					0.00					
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	狩俣 繁久		所 属	法文学部 国際言語文化学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	(1)前期は共通教育1コマ、学部7コマ、大学院5コマ、合計13コマの講義を担当する。 (2)後期は学部5コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当する。 (3)上記科目へ留学生、社会人を受け入れる。 (4)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施し、学生の実践的な調査研究能力を高める。 (5)金沢大学で「日本の諸方言・諸言語」集中講義(9.1~9.4.)を行なう。	0.30	(1)前期は共通教育1コマ、学部7コマ、大学院5コマ、合計13コマの講義を担当した。 (2)後期は学部5コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当した。 (3)上記科目へ留学生、社会人を受け入れた。 (4)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施した。 (5)金沢大学で「日本の諸方言・諸言語」集中講義(9.1~9.4.)を行なった。	
研究	0.25	(1)科研費基盤(A)「消滅の危機に瀕した琉球諸語、八丈語の文法の記述的な研究」の研究代表者として研究を総括する。 (2)科研費基盤(A)の研究のための臨地調査と資料整理を実施する。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「グローバル社会における主体的島嶼社会創生をめざした総合的研究」のプロジェクトリーダーとして研究を統括するとともに、文化財レッドデータリストの研究を行なう。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における”動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進する。 (5)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へー自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットのユニットリーダーとして研究を推進する。 (6)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し研究を行なう。 (7)『琉球アジア文化論集』2号に論文を投稿する。 (8)国際沖縄研究所IJOSIに論文を投稿する。 (9)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』に論文を投稿する。 (10)琉球大学琉球アジア社会文化研究会誌『琉球アジア社会文化』に投稿する。 (11)沖縄言語研究センターの公開研究会で研究発表する。 (12)沖縄市史『沖縄市史ー民俗編』に「沖縄市の方言」の原稿を執筆する。 (13)国立国語研究所 共同研究プロジェクト研究発表会「八重山石垣四箇方言の間接的エヴィデンシャルティ」を研究発表する。	0.25	(1)科研費基盤(A)「消滅の危機に瀕した琉球諸語、八丈語の文法の記述的な研究」の研究代表者として研究を総括した。 (2)科研費基盤(A)の研究のための臨地調査と資料整理を実施した。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「グローバル社会における主体的島嶼社会創生をめざした総合的研究」のプロジェクトリーダーとして研究を統括するとともに、文化財レッドデータリストの研究を行なった。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における”動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進した。 (5)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へー自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットのユニットリーダーとして研究を推進した。 (6)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し研究を行なった。 (7)『琉球アジア文化論集』2号に論文を投稿した。 (8)国際沖縄研究所IJOSIに論文を投稿した。 (9)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』に論文を投稿した。 (10)沖縄言語研究センターの公開研究会で3回の研究発表を行った。 (11)沖縄市史『沖縄市史ー民俗編』に「沖縄市の方言」の原稿を執筆した。 (12)国立国語研究所 共同研究プロジェクト研究発表会「八重山石垣四箇方言の間接的エヴィデンシャルティ」を研究発表した。 (13)『琉球諸語記述文法Ⅲ』に「硫黄島島方言の動詞形態論」を投稿し掲載された。	
社会貢献	0.10	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務める。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務める。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (5)沖縄言語研究センター研究運営委員長を務める。 (6)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務める。 (7)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わる。 (8)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典を編集する。 (9)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(沖縄大会)のシンポジウム」にパネリストとして参加する。 (10)与那国町教育委員会主催のワークショップ「方言辞典をつくろう」に講師として参加する。	0.10	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務めた。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務めた。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (5)沖縄言語研究センター研究運営委員長を務めた。 (6)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務めた。 (7)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わる。 (8)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典編集を行なった。 (9)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(沖縄大会)のシンポジウム」にパネリストとして参加した。 (10)与那国町教育委員会主催のワークショップ「方言辞典をつくろう」に講師として参加した。	
管理運営	0.35	(1)大学教育センター長(7.1.以降はグローバル教育支援機構副機構長)を務める。 (2)法文学部地域貢献支援委員会委員を務める。 (3)国際沖縄研究所副所長を務める。 (4)日本語教育副専攻の主任を務める。	0.35	(1)大学教育センター長(7.1.以降はグローバル教育支援機構副機構長)を務めた。 (2)法文学部地域貢献支援委員会委員を務めた。 (3)国際沖縄研究所副所長を務めた。 (4)日本語教育副専攻の主任を務めた。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		